

浪人生元気であるか

遠く都会の片隅で、寂しい気持ちを振り払って学習に専念している磐城高校卒業の浪人生諸君、元気ですか。

隣を見れば、名だたる高校を卒業して同じく浪人している人々を見ると、少しどころかかなり怖気づいているのではないかと推察します。やらなければならないと誓った問題を解き進めてみても、どこまで進めれば他人からずぬけていくのか、そのめぼしもつかないまま、毎日、予備校と住まいの往復の中に、心許せる友もできず、打ちひしがれていませんか。

私の子供も名古屋で浪人していました。1度訪れてみると、高校時代とは違った風貌と妙に大人になっている姿に、逆に心配をしたものでした。

偏差値で合格するものではないとわかっているにもかかわらず、できればすがりたい偏差値の上昇を心の頼みとしながら、その受験生の多さと、現役の生徒（特に中高一貫の私立の受験生）の動向と全体の母集団の動向に心砕きながら勉強を進めていくほかはない毎日であることは確かでしょう。

浪人のための予備校の授業は充実しているでしょう。ただ、そこで、自分が達成すべき得点率までの道程をまだまだ推し量ることは容易ではありません。やらなければならないことが多すぎます。こんなはずじゃなかったという日々を感じることもあるはずです。

私も浪人を経験しました。第一志望は、夏休みまでA判定でした。10月を過ぎて、B判定となり、12月にはC判定になったと記憶します。つまり、現役生が出てくるにしたがって、戦いは混迷のるつぼと化すのです。

その中で、心の支えとなったのは、得意科目への自信でした。浪人生の諸君、得意科目を研ぎ澄ませていきましょう。不得意科目のビハインドを埋めて余りある得意科目の伸長が大きな意味を持つのです。

磐城高校の校歌を思い出しましょう。風呂の中で大きな声で歌ってみてください。高校生活で培ったのは、単なる知識や技術ではなく、自分を生かしていこうとする大きな志であったはずです。

「燕雀安くんぞ鴻鵠の志を知らんや」の諺にあるとおり、大きな羽をはばたかせる場所を求めて飛びたった自らの意志と突き動かされた情熱を思い出しましょう。

陸上競技場のスタートラインや、福島あづま球場での打席に立った自分を思い出してください。この時を生かさずして今の自分はなかったはずです。

できなければできるところでやればよいのです。これは妥協ではありません。その客観性をもって、毎日を送ってほしいのです。

頑張れよ。浪人生。人生という長い航海の中での大きな1年にしてほしい。